

近畿建設リサイクル表彰	奨励賞〔発生抑制・搬出抑制部門〕
受賞者	株式会社長谷工コーポレーション (仮称) 鶴見緑地計画新築工事
受賞テーマ	業者間の声かけ運動実施による、4 R運動推進への取り組み

【取組概要】

当作業所はRC造地上12階建、共同住宅224戸、延床面積16,770.02m²の工事である。所長方針として『業者間の声かけ運動実施による、4R運動推進』を掲げ、職長会を主導に全職方・所員が一体となり廃棄物の分別活動に取り組み、4R活動を推進。工事完了時、混合廃棄物排出原単位3.91kg/m²、R率85.3%（当社ISOで7.0kg/m²、R率は80%以上が目標でそれを大きくクリア）を達成し、分別リサイクル活動に尽力した。

（1）Refuse：断る

天井電気配線をユニット化、排水管・設備ダクトのプレカットを採用し、現場加工時の端材発生を無くす。又、配線器具通い箱を利用し、梱包段ボールの削減。

- ・排水管・ダクトのプレカット：433(g/戸)×224(戸) = 96,992(g) 削減
- ・配線器具通い箱（段ボールの削減量）：320(g/戸)×224(戸) = 71,680(g) 削減

（2）Reduce：型枠ベニヤ廃材・残コンの発生抑制

躯体工事では、内スラブ、廊下・バルコニーの鼻先部、飾り壁、階段、完全スリット立上りにPCa、非耐力壁にALC、戸境壁に樹脂パネルを採用し、型枠材の使用率を59%削減、型枠廃材の発生を抑制した。又、外構工事では、躯体工事での余剰コンを全量利用し、残コンの発生を抑制。

（3）Reuse：建設発生土の場外再利用

土工事において、基礎掘削時に発生する土砂5,861m³の内、埋戻しに必要な土砂2,204m³を場内にストックし、建設発生土にて埋戻し土砂を100%再利用した。

（4）Recycle：分別による混合廃棄物の削減

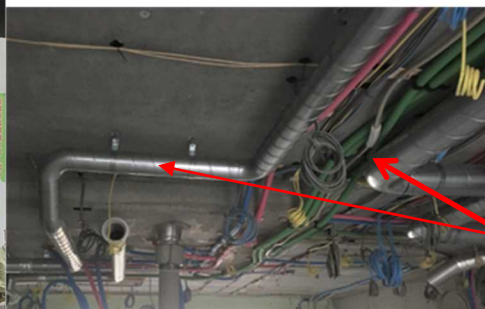
当作業所では職長会が主体となり、業者間で声を掛け合いながら廃棄物の分別活動を推進。『リサイクルヤード』を設置、『リサイクルマップ』にて分別品目毎の場所の表示し、職長会により分別状況を確認。活動状況をICT活用した『デジタルサイネージ』を利用し、全職方への周知徹底を図る。又、産廃業者を講師に『分別勉強会』を開催し、混廃コンテナ内の分別可能品目の仕分け確認を行い、リサイクルの促進を行っている。

【評価ポイント】

- ・10品目への分別による建設混廃原単位3.91kg/m²の達成
- ・4Rの推進によるリサイクル率85.3%の達成
- ・ICT活用の「デジタルサイネージ」による4R活動の周知徹底



デジタルサイネージを活用した教育状況



ダクト配管

天井電気配線ユニット（端材の発生抑制）

